

経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県石巻市 石巻市立牡鹿病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	ド	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
142,638	3,588	第1種該当	その他	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

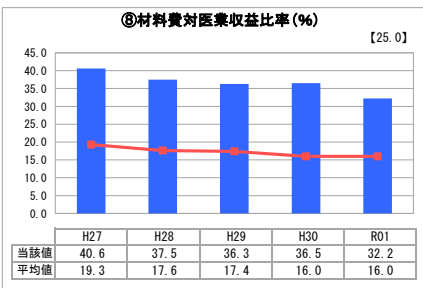
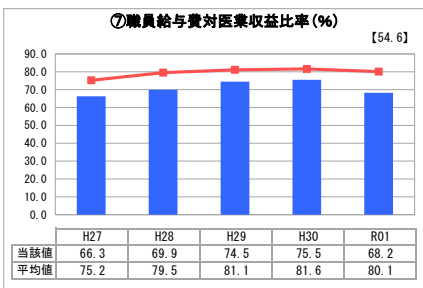
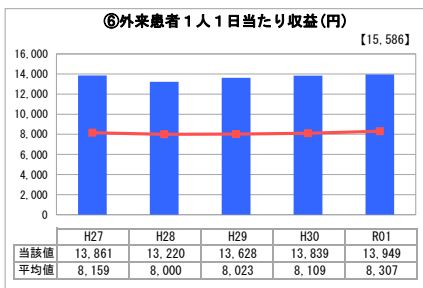
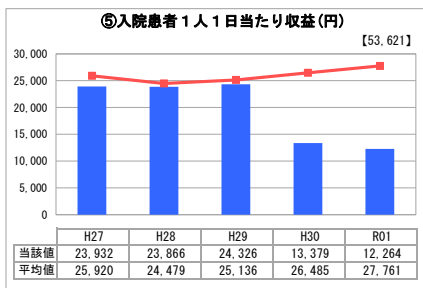
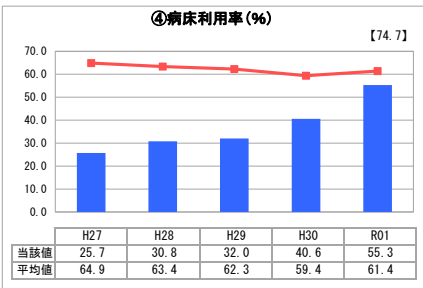
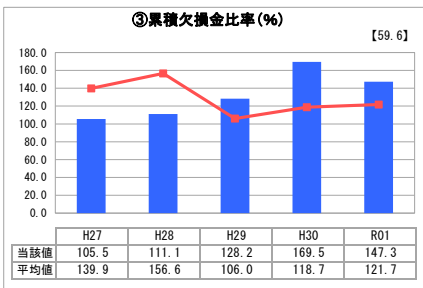
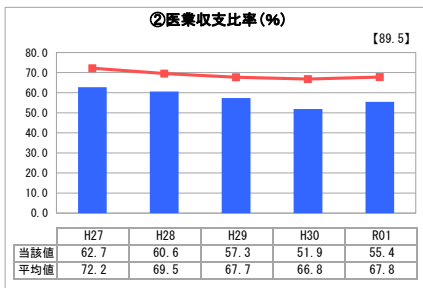
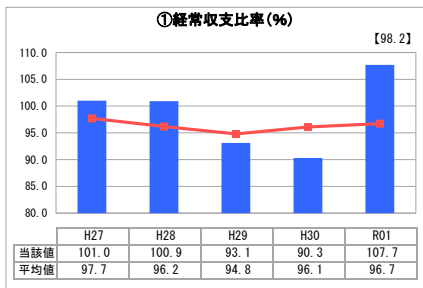
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
25	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	25
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
25	-	25

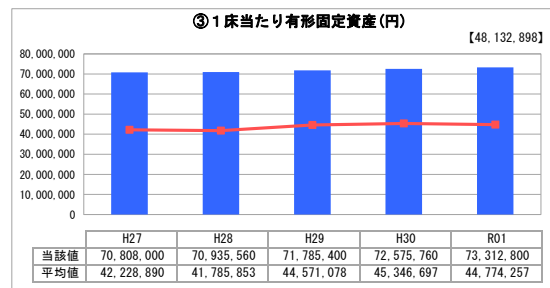
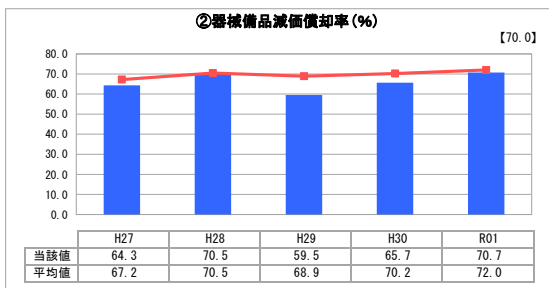
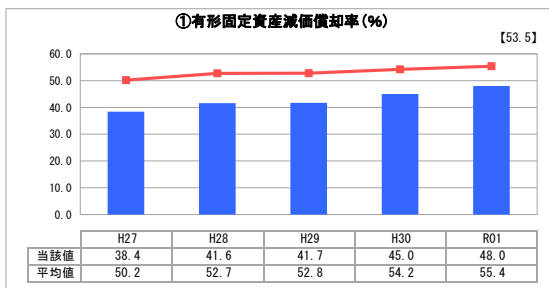
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

牡鹿地区唯一の急性期医療を担う病院として、内科、外科及び歯科の3診療科を標榜し、外来及び入院の一般診療のほか、24時間体制で救急患者の受け入れに対応している。このほかにも、一般健康診断業務、予防接種業務を行うとともに、学校医として、学校健康診断及び乳幼児健康診断業務、更に各種施設の嘱託医として健康診断業務にも協力し、地域医療を提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、入院患者数の増加に伴う入院収益増により、医業収益が増加する一方、診療材料費等の歳出減により、前年度比17.4ポイント増となった。このことから、医業収支比率についても、医業収益の増により3.5ポイント増となるとともに、累積欠損金比率については、22.2ポイント減となった。

一方、女川原子力発電所1号機廃炉に伴い、電源立地地域対策交付金は54,819千円の減となった。

2. 老朽化の状況について

前年度に購入した高額医療機器等の減価償却開始により、減価償却費は約699千円増加し、器械備品減価償却率は前年度比5.0ポイント増となった。有形固定資産のうち、建物が全体の約8割を占めており、竣工から未だ17年目であることから、有形固定資産減価償却率は比較的低いもの、医療機器等の老朽化により、年々上昇傾向にある。1床当たり有形固定資産は、平成15年の開院当初は50床であったが、患者数の減少等の理由により、25床まで減床したことから、有形固定資産額が高くなっている。今後は、空調設備、受電設備等の耐用年数が超過しており、部品の調達も困難となる見込みであることから、計画的に設備の更新及び修繕を行っていくこととした。

全体総括

東日本大震災後における牡鹿地区の人口は減少傾向にあり、震災前の人口4,533人（平成23年2月末現在）に対し、現在は2,312人（令和2年12月末現在）と人口減少に歯止めがかからない状況になっている。これに伴い、来院患者数も減少の一途をたどっており、医業収益増収が困難になっている。また、医療スタッフ等を安定的に確保していかなければならない課題もあるが、牡鹿地区にある唯一の病院として、地域医療を担う役割は大きく、救急医療をはじめ、地元住民が健康を維持し安心して暮らせるよう石巻市立病院と連携を図りながら、経常収支比率100%を目標に、地域医療提供体制を維持継続していきよう努めていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。